

I

問1 鉛直方向の力のつり合いの式：
$$mg = \frac{4}{5}\rho h S g$$

※ 以下で質量 m を $\frac{4}{5}\rho h S$ で表して解答してもよい。

問2 直方体の上面が液面に達するまでの運動方程式：

$$\underline{ma = \rho h S g - mg} \quad \text{または} \quad \underline{ma = \frac{1}{4}mg}$$

問3 問1・問2より、 $a = \frac{g}{4}$ である。等加速度運動の式より、

$$\begin{cases} d = 0 + \frac{1}{2}at_1^2 \\ v_1^2 - 0^2 = 2ad \end{cases} \quad \therefore \quad \begin{cases} t_1 = \sqrt{\frac{2d}{a}} = \sqrt{\frac{8d}{g}} \\ v_1 = \sqrt{2ad} = \sqrt{\frac{gd}{2}} \end{cases}$$

問4 直方体の上面が液面から出た後の運動方程式：

$$\underline{mA = \rho(h-z)Sg - mg} \quad \text{または} \quad \underline{mA = -\frac{5mg}{4h}\left(z - \frac{h}{5}\right)}$$

速度が最大となるのは $A = 0$ となる力のつり合いの位置であり、その座標は $z = \frac{h}{5}$ である。

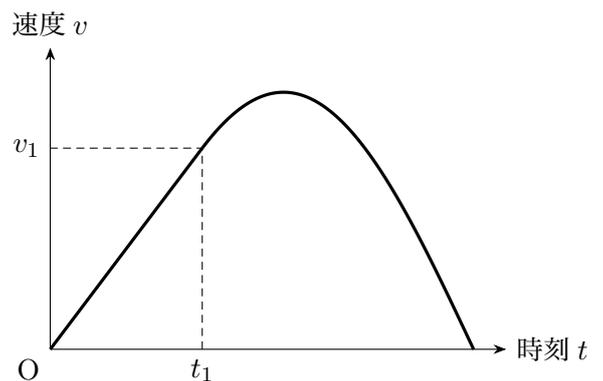
問5 $v-t$ グラフの概形は右図。

$0 \leq t \leq t_1$:

傾き $a = \frac{g}{4}$ で時刻 t に比例する直線に変化。

$t_1 \leq t$:

時刻 t_1 で接線の傾きが $a = \frac{g}{4}$ となる正弦関数で変化。



II

問1 電場の大きさ： $\frac{V}{\ell}$, 電場の向き： 右向き , 力の大きさ： $e\frac{V}{\ell}$, 力の向き： 左向き

問2 電場による力と抵抗力のつり合いより,

$$kv = e\frac{V}{\ell} \quad \therefore v = \frac{eV}{k\ell}$$

求める電流の大きさを I として, 電流の式より,

$$I = envS = \frac{e^2nSV}{k\ell}$$

求める電気抵抗の大きさを R として, オームの法則より,

$$R = \frac{V}{I} = \frac{k\ell}{e^2nS}$$

問3 1個の自由電子が電場からされる単位時間当たりの仕事は,

$$e\frac{V}{\ell} \cdot v = \frac{1}{k} \left(\frac{eV}{\ell} \right)^2$$

導体から発生する単位時間当たりのジュール熱は,

$$\frac{V^2}{R} = \frac{e^2nSV^2}{k\ell} \quad \left(= nS\ell \cdot \frac{1}{k} \left(\frac{eV}{\ell} \right)^2 \right)$$

問4 力のつり合いより, 電磁力は左向きである必要があり, フレミングの左手の法則より, 電流の向きは C → D である。このとき流れる電流の大きさを i とすると,

$$\begin{cases} \text{力のつり合い} & F = iBL \\ \text{キルヒホッフの第2法則} & uBL = Ri \end{cases} \quad \therefore \begin{cases} i = \frac{F}{BL} \\ u = \frac{RF}{(BL)^2} \end{cases}$$

抵抗 R_1 で発生する単位時間当たりのジュール熱は,

$$Ri^2 = R \left(\frac{F}{BL} \right)^2 \quad \left(= \frac{(uBL)^2}{R} \right)$$

問5 問4で $R = 0$ とすると $u = 0$ である。すなわち, 外力 F につり合う電磁力を生じる, 誘導電流の発生に必要な導体棒の速度は 0 であるため。

III

問1 うなりの式より, $f = \underline{f_A - f_B}$

問2 ドップラー効果の式より,

$$f_A = \frac{V}{V-v} f_B \quad \therefore f_B = \frac{V-v}{V} f_A \quad \dots \textcircled{1}$$

である。問1の関係と①式より,

$$f = \left(\frac{V-v}{V} - 1 \right) f_A = \frac{v}{V} f_A \quad \therefore f_A = \frac{V}{\underline{v}} f \quad \dots \textcircled{2}$$

①・②式より,

$$f_B = \frac{V-v}{V} \cdot \frac{V}{v} f = \frac{V-v}{\underline{v}} f \quad \dots \textcircled{3}$$

問3 ドップラー効果の式より,

$$\begin{cases} f_{A'} = \frac{V}{\underline{V+v}} f_A & \left(= \frac{V}{V+v} \cdot \frac{V}{v} f, \quad \therefore \textcircled{2\text{式}} \right) \\ f_{B'} = \frac{V}{\underline{V+v}} f_B & \left(= \frac{V}{V+v} \cdot \frac{V-v}{v} f, \quad \therefore \textcircled{3\text{式}} \right) \end{cases}$$

問4 うなりの式より,

$$f_O = f_{A'} - f_{B'} = \{V - (V-v)\} \frac{Vf}{v(V+v)} = \frac{V}{\underline{V+v}} f$$

問5 閉管における定在波が基本振動, すなわち, 波長が $4L$ となるときに L が最小となる場合である。

波の基本式より,

$$V = f_A \cdot 4L$$

$$\therefore L = \frac{V}{4f_A} = \frac{340}{4 \cdot 680} = \frac{1}{8} = \underline{0.125 \text{ m}}$$